

# 第 8 回アジアオープンソースソフトウェア(アジア OSS)シンポジウム

## 開催報告

### 1. 1 サマリ

◆主催：(財) 国際情報化協力センター

共催：研究技術省(Ministry of Research and Technology (Ristek))

通信情報技術省 (Ministry of Communication and Information  
Technology(Depkominfo))

バンドン工科大学 (Institute Technology Bandung (ITB))

インドネシア工学会(The Institution of Engineers, Indonesia (PII))

スポンサー：

NEC, ターボリナックス(日系企業), AsiaNux (日中韓企業)

HP, IBM, Divusi, インドネシアIGOS, CISCO, Chevron, TELKOM Indonesia,

Merpati (インドネシア企業)

◆開催日：

2007年2月11 (日) ~12日 (月) CodeFest

2007年2月13 (火) ~15日 (木) アジアOSSシンポジウム (展示など含む)

◆開催地：インドネシア・バリ

<アジアOSSシンポジウム>The Westin Resort, Nusa Dua, Bali

<CodeFest>バンドン・バンドン工科大学

◆会議参加者： 約130人

日本からの参加者-経済産業省、大学関係者、企業、団体、一般参加者他

アジアからの参加者-アジア20ヶ国/地域 (ASEAN10ヶ国、日中韓、チャイニーズ台北、  
中国・香港、インド、モンゴル、ネパール、パキスタン、バングラディッシュ、  
スリランカ)

その他-米国、オーストリア (講演者)

◆会議成果

- ・ アジアOSSシンポが新たなステージに入るというメッセージを、日本からの講演で段階的に発することができた。参加者全体としても、最終日に、参加20カ国の名前により、”Bali Declaration (バリ宣言)”を取りまとめ、OSS普及啓蒙段階から、OSSの具体的利用拡大段階へと一步を進めることが合意された。
- ・ スポンサーシップ及び展示ブースへの企業参加を、日系企業含め多く獲得できた。今後、ビジネス色を強めるにあたっての実例をあげる成果が、各国参加の場において得られた。

- ・ 従来と比較し、日本及びアジア各国からビジネスセクタが多く集まった。事前に日系企業の要望を聞き考慮したため、参画した企業ほぼ全てに対し、具体的に海外パートナーのビジネスマッチング（紹介）を実施した。
- ・ IPA OSSセンタと海外OSSセンタとの連携強化を目的に、カンボジア、インド、タイ、ベトナム個別ミーティングを設定した。インドとIPAのiPediaの活用、タイと相互協力協定締結の基本合意などの成果を挙げることができた。
- ・ 日経BP社の記者（委員）の同行や現地日系向け新聞、および現地メディアへの働きかけを行い、会議の様子を複数の記事にした。結果、現地政府・企業、日系法人および日本国内の広報強化の実績をあげることができた。

## 1. 2 シンポジウム開催背景

アジアにおけるLinuxを始めとするオープンソースソフトウェア（OSS）の利用は、ますます高まりをみせている。それを背景に、CICCではアジア地域でのより緊密な連携のあり方及びアジア地域に共有のテーマ等について参加者間の議論を深め、今後の協力体制を議論する目的で、経済産業省のご指導のもと当財団では2003年3月タイ国プーケットにて、「第1回アジアオープンソースソフトウェアシンポジウム」を開催致した。

以降、これまでに7回のシンポジウムを開催し、同シンポジウムを通じて、参加国・地域間で大きな協力関係が構築されたとともに、各々参加国内において、OSSに対する取り組みが目に見えて顕著となっている。

第3回のハノイ開催では、ベトナム政府が大統領承認による「OSS Master Plan」を発表するきっかけとなった。また、第5回の中国・北京開催では、今後の方向性を見据えた具体的なアクションプランを盛り込み、Repository, Human Resource Development, Standardalization, Localization, Code Festの5分野における「Beijing Statement」に合意し、アジア各国の意識共有を達成する成果をあげた。さらに、第7回のマレーシア開催では、産学官コミュニティなどのプレーヤにより、今後どのように持続的・自立的なエコシステムが可能な環境を具現化していけるか、という点について議論し、「Kuala Lumpur Statement」の合意に至っている。

## 1. 3 シンポジウム開催概要

第8回を迎える今回のシンポジウムは、政府がOSS政策であるIGOS(Indonesia Goes Open Source)を推進しているインドネシアで開催された。「OSSの活用によるデジタルデバインド解消とその経済効果 /UTILIZATION OF OSS, To close the Digital Gap, and Presage Its Economic Impacts」をテーマに、アジア20カ国・地域に加え、米国とオーストラリアから講演者を招聘し、約130名が参加した。

OSSの活用により、発展途上諸国のデジタルデバインドの解消を目指すとともに、地元企

業の活性化による自国の産業振興について、具体的な事例を紹介した。今回のシンポジウム開催にあたっては、特に日本の技術、OSSに対するアプローチ、事例など紹介し、アジア市場進出の賛助の場を創造することを目的として、各国の政府関係者のみならず、各国の民間企業（SIer）を広く集め、民間企業の製品などの展示スペース設置等、より産業サイドにフォーカスした。

新たな試みとして、現地C/Pが中心となりスポンサーを広く募り、NEC（日系企業）、AsiaNux（日中韓企業）、HP、Divusi（インドネシア企業）がスポンサーとして、またCISCO、Chevron、TELKOM Indonesia、Merpati（インドネシア企業）がサポーターとして協力した。また、展示スペースを設置し、NEC、ターボリナックス(日系企業)、AsiaNux（日中韓企業）、IBM、HP、インドネシアIGOSが、具体的なOSSを活用した製品やサービスを展示した。インドネシア政府高官や各国からの参加者からの関心も高く、今後のビジネスチャンス拡大に有益だったと考えられる。

3日間に渡るシンポジウムでは、初日、インドネシアからはバリ州知事I Nyoman Yasa氏、研究技術省大臣Kusmayanto Kadiman氏、通信情報技術省次官Ashwin Sasongko氏、産業省局長Budi Darmadi氏、日本からは経済産業省商務情報政策局情報処理振興課課長鍛冶克彦氏、弊財団専務理事 兼谷明男による挨拶があった。その後、Indonesia”Open Source Software Usage and Support”、“Economic impact of Open Source Software”、“Open Source Software Human Resources Development and Technologies”の3つのセッションにわけ、各々テーマ別の講演に続き、パネルディスカッションにて参加者から質問を受け付ける形で双方向の議論を行った。また、今回、インドネシアIGOS政策の一環として、バンドン工科大学を中心とするOSS分野の8大学ネットワーク（POSS Network）に関する調印式と、日系企業を含めたベンダー間との調印式も行われた。

最終日に、日本からアジアOSS普及推進小委員会委員長である高澤氏とインドネシアからバンドン工科大学Benhard氏がチェアとして、3日間に渡るシンポジウムの総括を行った。また、今回の会議趣旨と議論された内容を明記し、参加国20カ国の名前で、“Bali Declaration（バリ宣言）”に合意した。同宣言には、1ステップ上がるための切り替えの方向性としての総意を盛り込むことができた。また、(1)CICCシンガポールが実施している、アジアOSSトレーニングプログラムへの取り組みが、きちんと認識されたこと、(2)アジアOSSトレーニングプログラムの教材が、専用のサイトであるwww.asia-oss.netを通じて、公開されたことが発表されたこと、も盛り込まれた。

なお、シンポジウムに先立ち、バンドン工科大学で開催された第4回CodeFestは、学生の積極的な参加が見られた。日本のg新部氏がリーダーシップを取り、成果として、JavaでのVideo Gameミドルウェア、ファジィ論理を使ったエキスパートシステム、Ruby on Railsでのシステム構築、PHPで作るITB用ケータリングサービスシステムが、Free Softwareとして配布できる形になった。



アジアOSSシンポジウム参加者



アジアOSSシンポジウムの様子



展示の様子



CodeFestの様子

写真提供：日経 BP 社 ITpro

#### 1. 4 バリ宣言

### The 8th AOSS Symposium

13-15 February 2007

#### Bali Declaration

We, the participants of the 8<sup>th</sup> AOSS Symposium of 13-15 February 2007 at Denpasar, Bali, Indonesia, having listened to the presentations, discussed, and deliberated on the issues being addressed in the symposium, namely open Source software usage and support, economic impact of open source software, and open source software human resources development and technologies, and remembering issues, deliberations, and results of previous AOSS symposia, concur to express our views on the development, delivery,

and use of open source software in the AOSS member economies, as enumerated below:

1. observe that, while there are differences in the degree the Open Source Software (OSS) play role in computing and related activities of each of the member economies, OSS-based computing and other ICT related activities are emerging and growing in all of the member economies;
2. acknowledge the participation of IT industry partners in our effort to promote wider use of OSS, and initiative undertaken by the CICC in establishing AOSS training program;
3. appreciate and reinforce the role of local community in coming up with their own OSS training programs;
4. recognize that OSS-based computing and other ICT related activities provide the people of the AOSS member economies with wider opportunity to undertake computing and other ICT related activities without being stringently hampered by the inability to pay the costs for using commercial proprietary software or otherwise infringing internationally recognized IPR in the use of such software, thereby facilitates the processes for bridging the digital divide;
5. recognize the importance of standardization and indicators for OSS adoption;
6. realize that in the course of undertaking efforts to make OSS-based computing and other related ICT activities economically and socially effective, there is need for government, industry, educational institutions, and the civil society at large to joint hand-in-hand in a concerted effort to establish the required institutional infrastructure and instrumentalities for the proper functioning of OSS in computing and other ICT-related activities;
7. consider it essential that governments of each of the AOSS member economies, to take a more affirmative role in promoting the development, delivery and use of OSS in the economy's need for computing support and other ICT-related activities;
8. agree that the spirit of the AOSS initiatives in promoting and facilitating the development, delivery and use of OSS in AOSS member economies need to be enhanced, strengthened, and sustained.

In view of the above we, the participants of the 8<sup>th</sup> AOSS Symposium, consider it necessary that we should become active agents in promoting innovations in the development, delivery, use, and human resource

development of OSS and to develop, establish, and operationalize connectivity structures, involving civil society, academia, industry and governments to facilitate the said purpose. The wider implementation of OSS in various economies can depend on factors like e-Government projects. In addition, we recommend that studies on the economic impact of OSS be carried out individually as well as collaboratively by AOSS member economies, and that issue be taken up as future agenda.

Bali, 15 February 2007

## **Appendix:**

### **List of Member Economies**

1. Bangladesh
2. Brunei Darussalam
3. Cambodia
4. China
5. Hong Kong China
6. India
7. Indonesia
8. Japan
9. Korea
10. Malaysia
11. Mongolia
12. Myanmar
13. Nepal
14. Pakistan
15. Philippines
16. Singapore
17. Sri Lanka
18. Chinese Taipei
19. Thailand
20. Vietnam



## Bali Declaration (バリ宣言) (日本語訳)

我々、2月13-15日にインドネシア・バリで開催された、第8回アジア OSS シンポジウム(AOSS)参加者は、講演や様々なテーマに関する議論を行ってきた。シンポジウムでは、具体的なテーマとして、オープンソースソフトウェア(OSS)の利用とサポート、OSSの経済的効果、OSSの人材育成と技術、を取り上げた。AOSS参加各国は、議論を通じ、OSSの開発、拡大、利用に関し、以下のように表明する。

1. 各国において、OSSが果たす役割のレベルの違いはあるものの、全ての国において、OSS及びICT関連活動が拡大していることが見受けられた
2. 更なるOSS利用の拡大に向けたIT産業の参加、またCICCが実施しているAOSS研修プログラムのイニシアチブが認識された
3. 自身によるOSS研修プログラムが実施できる、ローカルコミュニティによる今後の役割が尊重され、強化された
4. AOSS参加各国の人々は、OSS及びICT関連活動により、商用ソフトウェアにかかるコストや知的財産権侵害の恐れなしに、コンピュータ利用やICT関連活動を提供でき、結果としてデジタルデバイド解消に繋がることが認識された
5. OSSの採用にあたっては、標準化や指針が重要であることが認識された
6. OSSやICT関連活動を、経済的・社会的に効果のあるものにするためには、政府、産業、教育機関、社会が手と手を携えて取り組み、OSSがうまく機能するために必要なインフラ整備や設備を設置することが必要である、と認識された
7. AOSS参加各国の政府が、その国が必要とするICTを活用したサポートと活動を行うために、OSSの開発、配布、利用を促進する積極的な役割を担うことは不可欠である、と考察された
8. AOSS参加各国において、AOSSイニシアチブを促進し、ファシリテートする精神が、向上し、強化され、持続することの必要性が合意された

上記の認識を踏まえ、我々、第8回アジア OSS シンポジウム参加者は、我々自身がOSSの開発、配布、利用、人材育成に対して積極的に取り組む必要があると考える。そして、上記の目的を達成するために、社会、大学、産業、政府を含めた連携を構築する必要があると認識した。各国におけるOSSの幅広い利用

は、電子政府プロジェクト等に適応されるだろう。加えて、OSSの経済的効果の研究・実施については、AOSS参加各国が個別に実施すると同時に協力して実施し、具体的な課題については今後のテーマとすることを、提案する。

別添：参加各国のリスト

バングラディッシュ、ブルネイ、カンボジア、中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、チャイニーズ台北、タイ、ベトナム

## 1. 5 プレスリリース

※日本語記事のみ添付

<日本>

- 「アジアで広がるオープンソース振興，インドネシア政府がOSS推進組織を設立」  
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20070214/261881/>
  
- 「社会とOSSをエンパワーする」 ---インドネシア オープンソース推進組織POSS会長 Benhard Shitohang氏  
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20070215/262085/>
  
- 「4万枚のLinux CDを配布，政府のシステムにOSS採用」 ---  
インドネシアのオープンソース推進政策責任者に聞く  
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20070216/262299/>
  
- 「アジアがオープンソースを求める本当の理由」  
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/OPINION/20070314/265191/>

<インドネシア>

- 「バリで国際シンポ開く-オープンソースを促進、バリ宣言を採択」 2007年2月16日裏1面  
The Daily Jakarta Shimbun (じゃかるた新聞 (日本語))
  
- Asian Countries Making the Switch to Open Source  
<http://www.antara.co.id/en/seenws/?id=27371>
  
- KOMPAS, 09 Feb. 2007 (インドネシア語)  
“Didorong, Penggunaan Open Source”
  
- PIKIRAN RAKYAT, 10 Feb. 2007 (インドネシア語)  
”AOSS Symposium Digelar di Bandung”
  
- Bisnis Indonesia (インドネシア語)  
“Open source sulit jadi industri besar” 13 Feb. 2007  
“ITB bentuk pusat penelitian peranti lunak open source” 15 Feb. 2007
  
- Metro TV -- e-lifestyle, Sunday, 18 Feb. 2007, 11:45am

## 1. 6 プログラム

### Day 1: February 13<sup>th</sup>, 2007

08:00 – 09:00	<b>Registration</b>	
09:00 – 09:15	Welcome speech (On behalf of Organizer)	Prof. Djoko Santoso Rector of ITB, Indonesia
09:15 – 09:25	Welcome speech	Mr. Akio Kanaya Executive Director, CICC, Japan
09:25 – 09:35	Welcome Speech	the Governor of BALI, Indonesia (*)
09:35 – 09:55	Keynote Speech & Opening address	Ministry of Communication & Information Technology, Republic Indonesia, presented by Dr. Ashwin Sasongko (Secretary General)
09:55 – 10:10	Keynote Speech	The Minister of Industry, Republic of Indonesia (By : Dirjen TI)
10:05 – 10:20	Keynote Speech : <b>Japan's OSS Policy - Utilization of Government sector and beyond -</b>	Mr. Katsuhiko Kaji Director of the Commerce and Information Policy Bureau, Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), Japan
10:20 – 10:35	<i>Brief Explanation of the 8th AOSS</i>	Organizer : Dr. Benhard Sitohang (ITB) & Mr. Shinji Takazawa (CICC)
	<b>Coffee/Tea Break</b>	
10:35 – 10:50	<b>Press Conference</b>	
10:50 – 11:20	Keynote Speech : <b>The Emergence of Open Source Geospatial Software: Opportunities for Software Developers</b>	Mr. Geoff Zeiss Director of Technology AUTODESK, Inc.
11:20 – 11:45	Keynote Speech & launching POSS-ITB dan PSOS (kominfo)	The Minister of Research and Technology, Republic of Indonesia
11:45 – 12:00	Photo	-
	<b>Lunch (Buffet Style)</b>	
12:05 – 13:25	<b>Lunch for only Distinguished guest and Sponsorship (separate room)</b>	
<b>Session 1</b>	<b>OSS Usage &amp; Support</b>	Chair : Prof. Saswinadi Sasmojo Poli DEL, Indonesia
13:25 – 14:25	Economy report	<i>Each economy representatives</i>
14:25 – 14:45	<b>Development &amp; Usage of IGOS</b>	Prof. Engkos Koswara Ministry of Research & Technology, Indonesia
14:45 – 15:05	<b>OSS Center in Japan : OSS promotion actions of Japan OSS Center</b>	Dr. Shuichi Tashiro General Manager of the Open Source Software Center, Information Technology Promotion Agency (IPA), Japan
15:05 – 15:25	<b>Center for Empowerment of OSS ITB (POSS-ITB) and POSS Network</b>	Dr. Benhard Sitohang POSS-ITB / STEI-ITB, Indonesia
15:25 – 15:35	MOU Sign : POSS Network, POSS Network - VENDORS	
15:35 – 15:50	<b>Coffee/Tea Break</b>	
15:50 – 16:10	<b>Free Open Source Software : The Avenue Toward Independent Indonesian Software Industry</b>	Mr. Cahyana Ahmadjayadi Ministry of Communication and Information Technology, Indonesia
16:10 – 16:30	<b>Realizing the Benefits of OSS for Enterprises</b>	Adi Rusli Managing Director Oracle Indonesia

16:30 – 17:30 <i>(parallel session)</i>	<b>Panel Discussion : OSS Usage &amp; Support</b>	Chair : Elisa Lumbantoruan (HP Indonesia) Panelist : Mr. Katsuhiko Kaji, Mr. Geoff Zeiss, Mr. Adi Rusli +2 rep. of eco member
	<b>Parallel Session : Localization Working Group</b> <Localization Workshop Member Only>	Chair: Mr. Takayuki Sato General Manager, IT infrastructure div, CICC
17:30	<b>Welcome Dinner Reception (Host by ITB / Organizer)</b>	

**Day 2 : February 14<sup>th</sup>, 2007**

08:00 – 09:00	<b>Registration</b>	
<b>Session 2</b>	<b>Economic Impacts of OSS</b>	Chair : Mr. Shiji Takazawa Chair of Japanese Comitte
09:00 – 09:20	<i>Report of the Localization Workshop</i>	Mr. Takayuki Sato General Manager, IT infrastructure div, CICC
09:20 – 09:40	<b>Open Source ERP &amp; CRM Compiere In Japan</b>	Mr. Jimurito Chief Executive Officer, Almas Inc.
09:40 – 10:00	<b>Virtualization Server for Open Source Environment</b>	Hendrico Soewardjono BCS Director, HP Indonesia
10:00 – 10:20	<b>Human Resources Development of Open Source Engineers</b>	Mr. Junichi Sakuma General Manager, Enterprise Solution Division, Wiseknot Inc.
10:20 – 10:40	<b>Coffee/Tea Break</b>	
10:40 – 11:00	<b>Asianux, new software business project from Asia Collaboration, Success story in China, Japan and Korea OSS market</b>	Mr. Geng Zengqiang Product & Marketing Director, Red Flag.Co.Ltd.
11:00 – 11:20	<b>Implication on society, economy and education</b>	Dr. Alexander Schatten, TU-Wien, Austria
11:20 – 12:30	<b>Panel Discussion : Economic Impacts of OSS</b>	Chair : Dr. Richard Mengko (Ministry of R&T, RI) Panelist : Mr. Jimurito, Mr. Hendrico Soewardjono, Mr. Geng Zengqiang, Dr. Alexander Schatten, + 2 rep. of eco member
12:30 – 14:10	<b>Lunch &amp; Exhibition</b>	
<b>Session 3</b>	<b>HRD &amp; Technologies</b>	Chair : Mr. Hiyane Kazuo (MRI)
14:10 – 14:30	<b>Technical Standards; Industry's contribution towards Interoperability</b>	Mr. Michael Mudd Comtia, Hong Kong IT Federation
14:30 – 14:50	<b>Asia OSS Training Program –The Challenge in making it relevant to industry, CICC Activities and OSS Master Training Program</b>	Mr. Toru Yamauchi, Managing Director, CICC Singapore Office Mr. Venkataraman Narayanan Consultant, CICC Singapore Office
14:50 – 15:10	<b>Making the Open Source/Open Community Work For You</b>	Mr. Randel D. Powell WW IDR Developer Skills Team Manager, IBM, USA
15:10 – 15:30	<b>European Computer Driving License</b>	Dr. Alexander Schatten, TU-Wien, Austria

15:30 – 15:50	Coffee/Tea Break	
15:50 – 16:50	<p>Report of CodeFest &amp; Explanation of OSS competition, and Community related activities.</p> <p>Short Presentation :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mr. Kwon Soon Son, Founder and Leader, Korean Linux Documentation Project (KLDP), Korea</li> <li>2. Mr. Akarawuth Tamrareang, Thailand "How Mambo Community Runs in Thailand"</li> </ol>	<p>Mr. Yohanes Nugroho, ITB Mr. Yutaka Niibe, Group Leader Free Software Initiative Group, of National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Japan</p> <p>Chair : Mr. Yutaka Niibe</p>
16:50 – 18:00	<p><b>Panel Discussion : HRD &amp; Technology</b></p>	<p>Chair : Mr. Ko Kazaana Panelist : Mr. Toru Yamauchi, Mr. Randel D. Powell, Dr. Alexander Schatten, Mr. Kwon Soon Son, Mr. Michael Mudd, + 1 rep. of eco member</p>
19:30	Dinner Reception (host by CICC)	

**Day 3 : February 15<sup>th</sup>, 2007**

09:00 – 10:20	<p>Round Table Discussion (Summary of symposium, and direction for the future)</p>	<p>Chair : Mr. Shinji Takazawa, CICC, Japan Dr. Benhard Sitohang, POSS-ITB Dr. Virach Sornlertlamvanich</p>
10:20 – 10:45	Coffee/Tea Break	
10:45 – 11:30	<p>Round Table 2 BALI STATEMENT</p>	<p>Chair : Mr. Shinji Takazawa, CICC, Japan Dr. Benhard Sitohang, POSS-ITB</p>
11:30 – 11:45	Closing Address	Organizer

## 1. 7 参加者リスト

### ◆海外

Names	Economy	Affiliation	Title
Ms. Tazrian Khan	Bangladesh	Bangla Innovation Through Open Source (BIOS)	Senior Member
Mr. S. M. Ashraful Kadir	Bangladesh		
Dr. Lim Chee Ming	Brunei	Universiti Brunei Darussalam	Lecturer
Mr. Noy Shoung	Cambodia	National Information Communications Technology Development Authority (NIDA)	Deputy Secretary General
Dr. Xie Qian	China	Beijing Cathaysaga Technology CO., LTD / CESI	Software Engineer
Mr. Kevin Che-wing Ng	Hong Kong	Hong Kong Productivity Council	Senior Consultant
Mr. R. Raja Gopalan	India	CDAC, Chennai, Madras	Center Head
Mr. Kwon Soon Son	Korea	Korean Linux Documentation Project (KLDP)	Founder and leader
Mr. EJ, Lee	Korea	Korea IT Industry Promotion Agency (KIPA)	Team Leader
Mr. SangKeun, Park	Korea	Miracle Linux	Team Leader
Dr. Yunjae, Jung	Korea	SAMSUNG SDS	Principal Engineer
Mr. Jun Bai Yoon	Korea	OSS Promotion Center, Korea IT Industry Promotion Agency (KIPA)	Manager
Mr. Mohamed Redzuan bin Abdullah	Malaysia	MIMOS Berhad Open Source R&D Lab	
Mr. U Thein Oo	Myanmar	Myanmar Computer Federation (MCF)	President
Mr. Prashant Lal Shrestha	Nepal	Open Source Software Committee, CAN	Coordinator
Mr. Sufyan Kakakhel	Pakistan	Open Source Resource Center, PSEB, Ministry of Information Technology.	Open Source ERP Specialist
Ms. EVA Neri	Philippines	Policy and Standards Dev. Group, National Computer Center, CICT	Head
Mr. Lim Kin Chew	Singapore	Centre for IT in Education & Learning, Temasek Polytechnic	Manager
Mr. Mr. Shahani Markus Weerawarana	Sri Lanka	University of Colombo School of Computing	
Ms. Hsiao Ju Huang	Taipei	Open Source Campus Promotion	Task Manager
Mr. Tzu-Chiang Liou	Taipei	Open Source Campus Promotion	
Mr. Akarawuth Tamrareang	Thailand	Marvelic Engine Co., Ltd.	President
Mr. Vorachet Jaraensawas	Thailand	Software Industrial Promotion Agency (SIPA)	System Analyst & Designer
Dr. Virach Sornlertlamvanich	Thailand	Thai Computational Linguistics Laboratory (TCL) CRL Asia Research Center	Co-Director
Mr. Krich Nasingkun	Thailand	Opensource Project, National Electronics and Computer Technology Center	Research Assistant
Ms. Boonyaluck	Thailand	Mambo Club Thailand	

Ngaovallapo			
Mr. Pisan Chueachatchai	Thailand	Mambo Club Thailand	
Ms. Thaniya Pakdeemongkol	Thailand	Mambo Club Thailand	
Ms. Thatsanee Charoenporn	Thailand	Mambo Club Thailand	
Mr. Quynh Nguyen Trung	Vietnam	Information Technology Office, Ministry of Science and Technology	Deputy General Director
Mr. Le Trung Ngia	Vietnam	Nhat Vinh Company	Director
Mr. Michael Mudd (Keynote)	Hong Kong	COMPTIA	

◆ 日本

Names	Affiliation	Title
Katsuhiko KAJII, Mr.	Commerce and Information Policy Bureau, Ministry of Economic, Trade, and Industry (METI)	Director
Shinji TAKAZAWA, Mr.	Advanced Technology Committee, SGI Japan, Ltd.	Chief Linux Consultant
Shuichi TASHIRO, Mr.	Asia OSS Steering Committee/Open Source Software Center, Information Technology Promotion Agency (IPA)	Chairman/General Manager
Jirimuto, Mr.	Almas Inc.	Chief Executive Officer
Junichi SAKUMA, Mr.	Enterprise Solution Division, Wiseknot Inc.	General Manager
Yutaka NIIBE, Mr.	Free Software Initiative Group, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology	Group Leader
Koichi YANO, Mr.	Turbolinux, Inc.	CEO & President
Mio MATSUDA, Mr.	Foreign Division, Turbolinux, Inc.	Manager
Soichi TAKAOKI, Mr.	Business Innovation Division, Toyo Business Engineering Corporation	Manager
Takashi KODAMA, Mr.	Strategic Business Promotion Unit, MIRACLE LINUX Corporation	Director
Yoshiaki FUKAZAWA, Mr.	Science and Engineering, Waseda University	Professor
Akira FUJITA, Mr.	Information Technology Division, Waseda Research Institute Corporation (WRI)	General Manager
Nobuyori TAKAHASHI, Mr.	ITpro, Nikkei Business Publications, Inc.	Deputy Editor
Kazuo HIYANE, Mr.	Information Technology Research Dept., Mitsubishi Research Institute, Inc. (MRI)	Director
Tomoyuki YATABE, Mr.	Mitsubishi Research Institute, Inc. (MRI)	Researcher
Ko KAZAANA, Mr.	Technical Journalist & Columnist	
Yukiharu YABUKI, Mr.	Kiire Japan	CEO
Masayuki HATTA, Mr.	Graduate School of Economics, Tokyo Univeresity	Ph.D Candidate
Mitsutoshi MORITA, Mr.	Japan Electronic Computer Co.,Ltd (JECC)	Managing Director
Asami ITAGAKI, Ms.	Japan Electronic Computer Co.,Ltd (JECC)	
Ryotaro OKADA, Mr.	Open Source Software Center, Information Technology	Researcher

	Promotion Agency (IPA)	
Katsunori YABUMOTO, Mr.	Enterprise Solution, NEC Indonesia	General Manager
Arif Budi Subekti, Mr.	Sales & Business Development, NEC Indonesia	Assist. General Manager
Takashi TADA, Mr.	NEC Solutions Asia Pacific	
Timothy Teng Yung Tan, Mr.	NEC Solutions Asia Pacific	
Daisaku TAKEUCHI, Mr.	NEC	
Akio KIDO, Mr.	Strategy & Global Innovation Center, IBM, Japan	Senior Technical Staff
Motonobu ICHIMURA, Mr.	OSS Solution Business Unit, NTT Data Corporation	Consultant
Akio KANAYA, Mr.	CICC	Excutive Director
Toshiyuki SATO, Mr.	CICC	General Manager
Kazuhiro Ooki	CICC	General Manager
Tomoko ASAI	CICC	Researcher
Miki EMURA, Ms.	CICC	Researcher
Mika ITO, Ms.	CICC	Researcher
Maki KONNO, Ms.	CICC	Researcher
Toru YAMAUCHI, Mr.	CICC Singapore Office	Director
Narayanan	CICC Singapore Office	Consultant

## 2. CodeFest 開催報告

### 2. 1 主催・共催

主催：(財) 国際情報化協力センター

共催：研究技術省(Ministry of Research and Technology (Ristek))

通信情報技術省 (Ministry of Communication and Information  
Technology(Depkominfo))

バンドン工科大学 (Institute Technology Bandung (ITB))

インドネシア工学会(The Institution of Engineers, Indonesia (PII))

### 2. 2 開催日・開催地・参加人数

◆開催日：

2007年2月11 (日) ～12日 (月) CodeFest

◆開催地：インドネシア・バリ

バンドン・バンドン工科大学

◆会議参加者： 約30人

日本およびインドネシアバンドン工科大学学生を中心に参加。

### 2. 3 CodeFest 開催概要

アジアOSSシンポジウムに先立ち、第4回CodeFestはバンドン工科大学で開催された。バンドン工科大学学生の積極的な参加が見られた。日本のg新部氏がリーダーシップを取り、成果として、Java での Video Game ミドルウェア、ファジイ論理を使ったエキスパートシステム、Ruby on Rails でのシステム構築、PHP で作る ITB 用ケータリングサービスシステムが、Free Software として配布できる形になった。

当日開発されたプロジェクトは、以下のURLで閲覧できる。

<http://members.fsij.org/trac/codefest-asia-2007>

### 2. 4 プレスリリース

- 「なぜ彼らは空をとび海を渡りひざを突き合わせてプログラムを書くのか」

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070308/264337/>

## 2. 5 プログラム

Date : Feb. 11 – 12, 2007

Venue : Labtek V, School of Electrical Engineering and Informatics – ITB  
Campus of ITB, Bandung

<b>February, 11th Sunday</b>		
09.00 - 09.10	Report of the 8th AOSS Organizing Committee	Dr.Benhard Sitohang STEL-ITB
09.10 - 09.25	Opening Address on the Whole 8th AOSS Activities	Prof. Djoko Santoso Rector of ITB
09:25 - 09:50	CodeFest	Mr. Yutaka Niibe Group Leader Free Software Initiative Group, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Japan
09.50 - 10.30	Coffee/Tea Break	
10:30 - 11:30	Initialitation of Coding Problem	Mr. Yohanes Nugroho, ITB  Mr. Yutaka Niibe
12.00 - 13:00	Lunch	
11.30 - 24.00	START – Code Fest *)	
<b>February, 12th Monday</b>		
00.00 - 23.00	Coding / Testing by the participant *) and Evaluation by	CodeFest Reviewer
23.00 - 24.00	The Best Participant Announcement by the Reviewer	CodeFest Reviewer
Feb. 13rd At 11:00	Leaving Bandung to Bali (Participant from economies member + some local [winners] participants)	

\*) coffee break and dinner will be prepared at Floor3, Labtek V, ITB Campus

## 2. 6 参加者リスト

No	Name	Projects
1	Mr. Yutaka Niibe	GHDP, Bug fix
2	Mr. Tomoyuki Yatabe	Non developers
3	Mr. Nobuyori Takahashi	Non developers
4	Mr. Masayuki Hatta	Software release (debian packaging)
5	Mr. Ko Kazaana	Non developers
6	Mr. Yukiharu Yabuki	Help with debian packaging
7	Mr. Yohanes Nugroho	CAV
8	Mr. Peb Ruswono Aryan	ANGEL: Game Engine Library
9	Mr. Yohannes Baptista Agusnugroho	Translation

10	Mr. Aprian Diaz Novandi	E-Stall: Small food store management
11	Mr. Eko Budhi Suprasetiawan	Leuser: Game programming framework
12	Mr. Roberto Eliantono Adiseputra	Drill: Programming Contest Test Environment
13	Mr. Mohamad Octamanullah	ANGEL: Game Engine Library
14	Mr. Eko Adi Wicaksono	ANGEL: Game Engine Library
15	Mr. Ibrahim Arief	Furry, Fuzzy Logic Inference Engine, ANGEL: Game Engine Library
16	Mr. Ronald Augustinus Penalosa	ChatBla: Chat module for Joomla
17	Mr. Ifnu Bima	Rembug: project management
18	Mr. Abdul Gaffur A Dama	In-Fantastico: script installer
19	Mr. Andoko Gunawan Iskandar	ANGEL: Game Engine Library
20	Mr. Aldo Juwito Yahya	ChatBla: Chat module for Joomla
21	Mr. Wisnu Manupraba	Internet Voucher System
22	Mr. Diki Andreas	Toombila
23	Mr. Ahmy Yulrizka	LiveCD for Education
24	Mr. Paul G Hariyanto	Bug fix, translation, etc
25	Mr. Raymond Ralibi	LiveCD for Education
26	Mr. Bayu H Winata	Bug fix, translation, etc
27	Mr. Anggriawan Sugianto	Bug fix, translation, etc
28	Mr. Ahmal Abdalkarim Sahim	Bug fix, translation, etc
29	Mr. Rocky Hartono	Bug fix, translation, etc
30	Mr. Budiono	Bug fix, translation, etc
31	Mr. Fuad Muhammad	LiveCD for Education
32	Mr. Widya Saseno	Bug fix, translation, etc